

わ く わ く  
**WAKU WAKU**

熊野で一番小さなクラスの一番大きな挑戦

**正しいと思うことを、自信をもって**

～道徳研究大会から～



著作権のため、教科書の挿絵と違う画像を使用しています

＝続き＝ 一郎くんは勉強や運動ができて、力も強い男の子です。

さて、一度はみんな教室に戻ったものの、やはりすっきりしない明くんは、帰りの会の反省でこのことを取り上げます。しかし、そこでも一郎くんは、自分はセーフだと主張を曲げません。

そこに、普段はおとなしく、あまり発言することのない登くんが立ち上がり、外野から見ていて明らかにアウトだったということや、どんなことにも一郎くんと同調する周りの人もどうなのか、と自分の考えを発言します。そして、

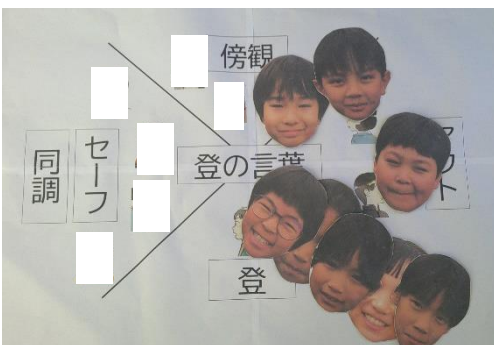
この登くんの発言は、みんなの心にひびいたのでした…。

この後、子供たちに「なぜ、登くんの言葉が、みんなの心にひびいたのでしょうか。」と、問いかけました。子供たちから出た考えは、主に次の2つでした。

- ① 一郎くんが何も言わなかったから、周りのみんなも何も言わなかった。  
 (一郎くんに忖度した。)

- ② 登くんの言葉が正しいと思ったから、みんなの心にひびいた。

どちらかという、①の方に賛成する声が多かった(予想外!)のですが、「じゃあ、もし登くんが黙ったままだったり、登くんがこのクラスにいなかったら、どんなクラスにこれからなっていくかね?」と、問い返したところ、モヤモヤしたクラスとか、間違ったことがそのままになって嫌だ、などの発言が出ました。



最後に、自分はこれからどうありたいか、それぞれの立場を示した図で表したところ、左の写真のようになりました。同調する立場でいようとする子供はいませんでした。時には傍観する立場になっても、正しいと思うことを発言したり、行動したりすることを全員が選びました。はたして、大人の我々には、できているのでしょうか…